



東洋産業だより

Vol. 271

空き家増加で増える鳥獣害への対応

近年、人口減少等の原因から、全国で空き家が増えており、それに伴う小型有害鳥獣による被害が深刻になっています。管理が行き届かない空き家は、「雨風をしのげる」「外敵が少ない」「人が出入りしない」ことから、ハクビシンやアライグマ、イタチ、ネズミやコウモリ等の小型有害鳥獣の格好の住処となります。そして、いったん住み着いた鳥獣は、空き家を拠点として周辺の住宅や工場、倉庫などへ活動範囲を広げるため、近隣への被害拡大が問題となっています。

工場や倉庫、店舗に侵入するハクビシン等の被害を解決するためには、糞や足跡などの痕跡調査や、暗視カメラの映像などを用いて、まず原因動物の種類を特定し、侵入経路や移動経路、行動パターン等を把握することが重要です。

なお、ハクビシンやイタチは鳥獣保護管理法の対象となる野生鳥獣であるため、捕獲には行政機関の許可が必要です。弊社では法令遵守の観点から、ハクビシンやイタチ等の捕獲業務は行っておりません。そのため、侵入状況の調査や生息確認、忌避施工、侵入口の封鎖など、「寄せ付けない」「追い出す」「再侵入させない」ための対策を中心にご提案いたします。

環境整備の例

- ✓ 数センチの隙間から侵入可能なため、外壁の穴・換気口・天井の隙間などを封鎖する。
- ✓ 餌になるような生ごみ等を敷地内に放置しない。
- ✓ 高所に登れる木を定期的に剪定する。
- ✓ 天井裏に刺激臭のする忌避剤を設置する。
- ✓ 強烈な音や光で追い出す。



写真：親子で行動するハクビシン（暗視カメラ画像）



←写真：屋根裏に侵入した小動物の糞と断熱材の被害

おすすめ



サイズ：130×90mm

獣ナイン 不織布タイプ
特徴：ネズミやハクビシンなど小動物に幅広く効果のある天然成分由来の忌避剤を染み込ませた不織布バッグ。開封したら付属の両面テープで貼りつけるかフックにひっかけるだけで使用可能。

今月の豆知識

スズメバチの「当たり年」とは？～発生数を左右する要因～

スズメバチの「当たり年」について話題になることがあります。これは、ある年にスズメバチの発生が特別多く感じられる現象を指します。実際には地域や気象条件によって状況は異なりますが、温暖化などの影響で越冬した女王蜂の生存率が高い年や、春先から初夏にかけて天候が安定した年は、巣作りや働き蜂の育成が順調に進み、結果としてスズメバチの個体数が多くなる傾向があります。

特にキイロスズメバチは、これから巣の引っ越しを行う時期を迎えるため、巣が急速に大きくなり、働き蜂の数も増加します。そのため、住宅や工場などの敷地内の軒下や樹木に、成長した巣が発見されるケースが増えてきます。



2026年は3～5月にかけて全国的に気温が高めで推移した一方、6月は多くの地域で降水量が平年を上回りました。そのため、スズメバチの発生状況を気象条件だけで判断することは難しく、「今年は当たり年になる」「今年は少ない」と一概には言えません。ただし、春先の気温が高めだったことから、今後の気温や降雨の状況次第では、夏から秋にかけて巣が急速に発達することも考えられます。

人の出入りが少ない場所や軒下、設備周辺などが営巣場所となることもあるため、これから秋口にかけては特に注意して点検・対策を行いましょう。

